

令和3年度 中学部研究について（中間まとめ）

I 研究テーマ

「児童生徒の自立的・主体的な生活につながる授業実践の取組」
～ 各教科等との関連を意識した作業学習の授業実践・評価・改善 ～

II 研究テーマ設定の理由

1 学校教育目標・学部教育目標から

本校では学校教育目標として「児童生徒一人ひとりが個性と能力を発揮し、可能性を最大限に高め、自立的・主体的な生活をおくる」を掲げており、中学部においても、この目標を中学部という年齢や発達段階に落とし込んだ形で学部の教育目標を定め、日々の教育実践に取り組んでいる。中学部の学部教育目標と経営方針を【表1】に示す。

【表1】 本校中学部の教育目標及び経営方針

学部目標
(1) 自分から進んでもものごとに取り組むことができる。 (2) 社会生活に必要な基礎的知識・能力を身につけることができる。 (3) 健康に気をつけ、最後までやり通す力を身につけることができる。
経営方針
(1) 生徒の教育的ニーズを把握し、個別の指導計画に即した効果的な指導を図る。 (2) 生徒の学びやすさを重視し、教材教具を工夫し環境整備を行う。 (3) 個々の生活ニーズに応じた自主的な活動を支援し、日常生活・社会生活に必要な知識・技能の習得を図る。 (4) 多様な学習形態とテーマのある生活をとおして自立的・主体的な活動を支援する。 (5) 学校内外の人とふれあう機会をもち、自己理解を進め社会性を育成する。 (6) 家庭・寄宿舎・学園との連携を密にし、支援の一貫性を確保する。 (7) 機会をとらえて他学部の指導内容を知るように努めるとともに、学部間の引き継ぎを確実に行うことで、指導の一貫性を保つ。

名古屋（2019）は「中学部は義務教育の修了段階です。したがって中学部では社会人となるための必要な教育をきちんと完了しなければなりません」「義務教育修了という節目を大切にし、作業学習を中心とした働く生活の充実を図ることが求められます」としており、これは本校中学部が目指す「社会生活に必要な基礎的知識・能力を身につける」ことと共通する部分である。また名古屋は一方で「通常の教育において中学校から高等学校への進学がほぼ自明となっている今日、あまり意識されることはない」「中学部が高等部に接続する学部であることもまた事実」ともしており、本校中学部においても高等部教育に接続することへの期待を持ちつつ、義務教育修了段階で学校教育目標にもある「(一人ひとりの)可能性を最大限に高める」ための「作業学習を中心とした働く生活の充実」を目指す取組が求められていることが言える。

2 これまでの学部研究から

各教科等を合わせた指導の指導形態である「生活単元学習」は「児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際の・総合的に学習するもの」⁽²⁾とされている。本校中学部においても生活単元学習に年間280時間の授業時数を設定し、単元により学級、学年、学部単位による実践を行ってきた。前次研究においては、この「生活単元学習」の授業改善を目指した実践研究に取り組み一定の成果を得ることができた。前次研究の成果と課題を【表2】に示す。これらは「各教科等を合わせた指導」の指導形態である「生活単元学習」の実践の中で得られたものであるが、同じ「各教科等を合わせた指導」の指導形態である「作業学習」にも応用できることが想定できる。

【表2】前次研究における研究の成果と課題のまとめ⁽³⁾

成果
1 全ての学年で、学年全体での生活単元学習の授業実践の取組を行ったことで、学部職員のほぼ全員が中学部の目指す授業づくりに直接関わるることができた。
2 それぞれの実践において、様々な方法により、授業の成果や課題及び改善策をまとめることができた。今後、授業内容などに応じた、適切な方法による授業分析につなげられると思われる。
3 全体研究で提示した「本校児童生徒の主体的な姿」や「授業改善の視点」を意識した授業実践ができ、それらの関連を資料としてまとめることができた。
4 授業記録シートの中の「支援の手立て」の分析により、今回の授業実践の中で取り組まれた手立てを7点にまとめることができた。今後の授業づくりにつながる資料として活用していきたい。
課題
1 当初は学級単位での授業実践も想定していたが、結果的に学年全体の授業づくりの実践ばかりになったため、学年によっては授業づくりシートの作成に関わる職員が限られた。昨年度の研究でも同様の課題があげられており、より計画的な研究実践が求められる。
2 授業実践の分析にテキストマイニングという手法を取り入れたが、データ処理について難解な部分も多く、信頼性の高いものにするためにはさらなる研修が必要である。
3 授業の多くでICT機器の活用が求められている。コロナウィルス感染症対策のための密を避けるオンラインでの活用方法など、職員の研修が必要である。

3 学部の実情から

本校中学部の在籍数はここ数年減少傾向にあり、今年度の在籍数は令和元年度と比べて32%の減となっている。【表3】

この在籍数の減少により、特に学部全体で取り組む行事等については、その内容や方法にこれまでとは違った工夫が必要となる。また学年の枠を越えた縦割りの班編成により取り組んでいる作業学習

においても、4つある作業班の生徒数が平均3名以上の減となっていることから、それぞれの作業班において、作業製品の変更や作業内容・工程の工夫が必要となるであろうことが予想できる。

作業学習は「作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するもの」⁽⁴⁾とされており、本校中学部においても年間140時間（週あたり4時間）の授業時数で、年数回の作業学習期間と年1回の校内実習を設定した、いわゆる「まとめ取り方式」で実施している。名古屋は「知的障害教育の教育課程の伝統の中には高等部が作業学習中心であるのに対し、中学部では生活単元学習と作業学習を時期ごと（大体一ヶ月くらい）に交互に実施するという方法が存在して」としており、本校中学部の実施方法はこれに近いものである。今年度の作業学習の実施予定を【表4】に示す。

この「まとめ取り方式」による作業学習の実施については、学部の年度末反省会でも話題になっており、校内実習を除く作業学習については、本来の時程どおり週4時間の授業を通年行う方式をとるべきだという意見もある。しかしこの「通年方式」を取り入れるには、例えば、調理活動が活動の中心となっている「クッキー班」の活動が制限されるなどの課題もあり、「通年方式」への変更については慎重な意見もある。結果的に、今年一年間かけて「まとめ取り方式」の課題を改めて洗い出すとともに「通年方式」を導入する際の問題点や改善策を検討し、翌年度以降の方向性を定めていくことを確認したところである。

【表3】前沢明峰支援学校中学部の在籍数

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
在籍数	41名 (100%)	34名 (83%)	28名 (68%)

※（ ）は令和元年度を100としたときの比率

【表4】令和3年度中学部作業学習実施予定

	期間及び実質の日数（授業時数）
作業学習①（3、4校時）	4月26日（月）～5月7日（金）5日間（10時間）
作業学習②（3、4校時）	6月10日（木）～25日（金）12日間（24時間）
作業学習③（3、4校時）	10月4日（月）～15日（金）10日間（20時間）
校内実習（1～6校時）	11月17日（水）～12月3日（金）12日間（72時間）
作業学習④（3、4校時）	1月31日（月）～2月10日（木）9日間（18時間）
計	48日間（144時間）

以上のことから、本次研究においては前次研究において各教科等を合わせた指導である「生活単元学習」の実践により得られた成果をもとに、学部の実情を踏まえ、「生活単元学習」と同じ「各教科等を合わせた指導」の指導形態である「作業学習」を取り上げた実践研究に取り組むこととする。

Ⅲ 研究内容

- 1 学部研究の基本構想と共通理解
- 2 作業学習年間指導計画の作成と作業内容、製品、工程等の見直し
- 3 作業学習版授業づくりシートの作成と活用・改善
- 4 授業実践と PDCA サイクルによる授業改善の取組
- 5 研究のまとめ

Ⅳ 研究計画【表5】

月	期日、内容	主な内容
4	15日 学部研①	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度前沢明峰支援学校全体研究計画（案）の概要 ・本次研究の方向性について提案・協議
5	12日 学部研②	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の内容、計画等について協議、資料を検討 ・作業学習年間指導計画の作成（作業班毎）
	28日 全体研究会①	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究について全体に提案
6	17日 学部研③	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の推進 ・授業づくりシートを使用した授業実践、授業改善 ・授業研究会担当者（作業班）の検討
7	5日 学部研④	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の推進 ・授業づくりシートを使用した授業実践、授業改善 ・授業研究会担当者（作業班）の決定
8	19日 学部研⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の推進 ・授業づくりシートを活用した授業実践、授業改善
9	16日 学部研⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の推進 ・授業研究会指導案（授業づくりシート）の検討
	22日 授業研究会①（高）	
10	15日 授業研究会②（中）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会における授業提案と協議
	21日 学部研（中高）⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会の反省
11	18日 学部研⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の推進 ・授業研究会を受けての学部研究のまとめ
	25日 ステップアップⅡ研修講座	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校特別支援学級担当者への授業公開と研究会
12	9日 学部研⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめ、全体研究会資料の検討
	10日 授業研究会③（小）	
	24日 全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究のまとめの発表と協議
1	20日 学部研⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の反省 ・全体研究会を受け、必要に応じて資料の修正
2	17日 学部研⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究資料の確認（決裁後 PDF データを HP で公開） ・2年次の研究内容についての意見交換、方向性の確認

V 研究推進にあたって

学部研究の推進にあたっては、全体研究のVIで提示されている以下の点について、共通理解を進めながら取り組んでいきたい。(全体研究資料参照)

- 1 学校教育目標等から
- 2 前次研究の課題から
- 3 全体研究会の助言等から

VI 研究の実際

1 年間指導計画の作成と作業内容、製品、工程の見直しについて

(1) 学校教育目標から個別の支援目標への文脈性について

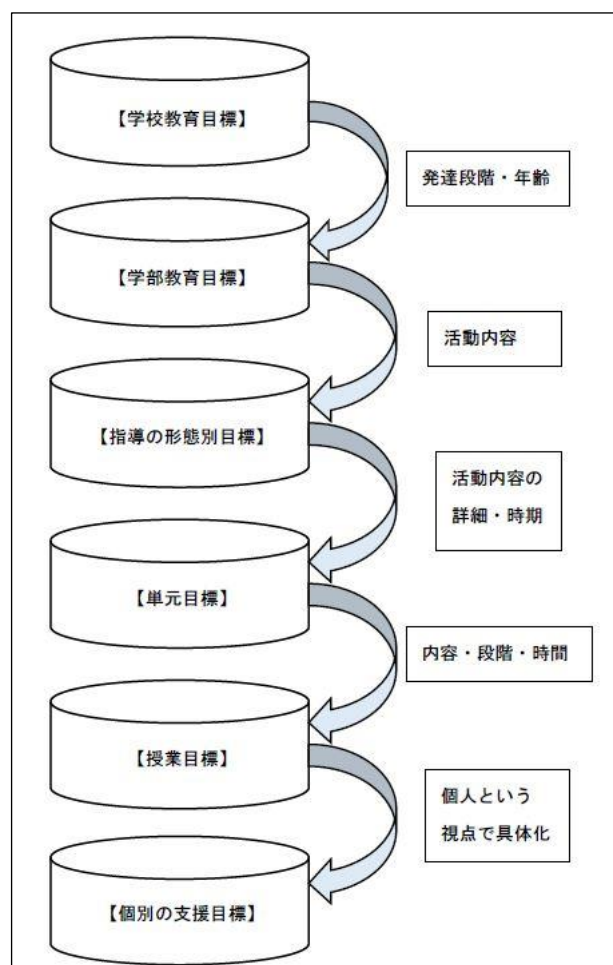
坪谷ら⁽⁵⁾は「学校教育目標は、全ての児童生徒が施行する内容であるから当然ながら抽象度が高い。それを順次具体化していくが、各段階では具体化する際の観点がある」としており、例えば学校教育目標を「発達段階・年齢」という観点で具体化したものが学部教育目標となる。以下「活動内容」や「段階」「時期」など様々な観点で、より個に即した形で具体化していったものが、最終的に個別の目標となる。【図1】

今回の研究では、このプロセスを参考に、学校教育目標を学部教育目標、作業学習年間指導計画の目標、単元目標、授業目標、個別目標のように順次具体化し、これらの目標の達成を目指した取り組みを行っていくことが学校教育目標に迫ることにつながると考えた。【図2】

そこで中学部では、各作業班の年間指導計画の目標が、学校教育目標等の文脈を受けたものになっているか、作業班毎のグループワークにより意見交換を行った。各作業班で話し合われた内容の要旨を【表6】にまとめる。

この結果、どの作業班においても、おおむね学校教育目標、学部教育目標の文脈を受けた形での目標設定がされていることを確認することができた。

ここで、グループワークで出された意見の中から2つをピックアップして、次年度に向けた課題としてまとめる。



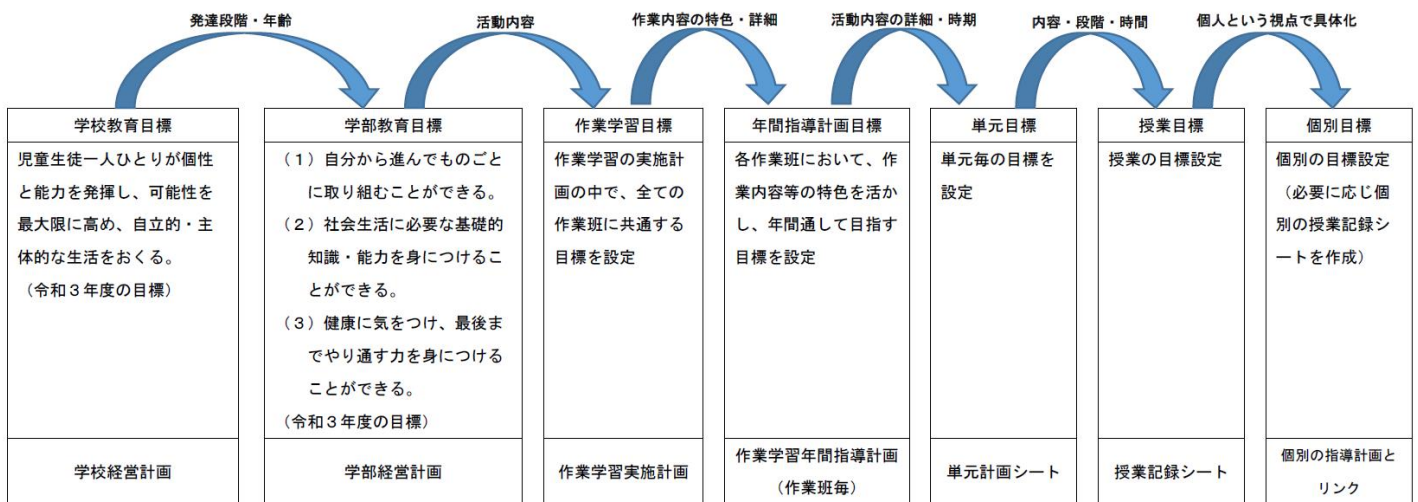
【図1】学校教育目標から個別の支援目標への文脈性

【表6】学校教育目標から作業学習年間指導計画目標への文脈性についてのグループワークまとめ

グループワークのまとめ（要旨）	
クラフト班	学校教育目標と作業学習の目標を関連付けられるようにしておく必要がある。 作業学習の目標の中に「自分から」「進んで」等の言葉が入ると良い。 学部教育目標の「(3) 健康に気を付けて～」が強調された目標になると良い。 学校教育目標・学部教育目標の中のキーワードを使って目標を立てると良い。
クッキー班	「主体的」「自分から進んで」というキーワードが共通している。 「衛生面」は社会性の育成につながる。 「担当する仕事に分かり」は「自立的・主体的」につながる。 「必要な道具の準備」「あいさつ」も社会性につながる。 (学部目標にある)「最後までやり通す」には工程を理解している必要がある。
紙工班	最終的に目指すところはどの作業班も同じはずである。その目標を達成するために紙工班としてどのような特色を出していくか。 単元毎にそれぞれの作業班の特色ある目標設定をすると良いのではないかな。
手芸班	「最後まで時間いっぱい取り組む」〔学びに向かう力・人間性〕を追加したい。 作業学習の目標ではなく個別の目標に入れた方が良い内容のものもあった。 目標達成のために、どのように意欲を持たせていくかという点で、作業種や工程の土台が出来上がっていないことが、職員側の課題である。

①「学部としての作業学習の目標」について

グループワークの中で「最終的に目指すところはどの作業班も同じはずである」という意見が出された。ここでは、この意見を【図1】の【指導の形態別目標】を【(学部全体としての)作業学習の目標】と【作業班ごとの特色を生かした年間指導計画の目標】の2つに細分化してはどうかという提案として受け止めることとする。【(学部全体としての)作業学習の目標】は年度当初の実施計画の立案時に確認されている内容ではあるが、作業班ごとの年間指導計画を立案する際に学校教育目標や学部教育目標と同様に、その文脈を受けたものにしていく意識を高める必要がある。この流れを【図2】に示す。

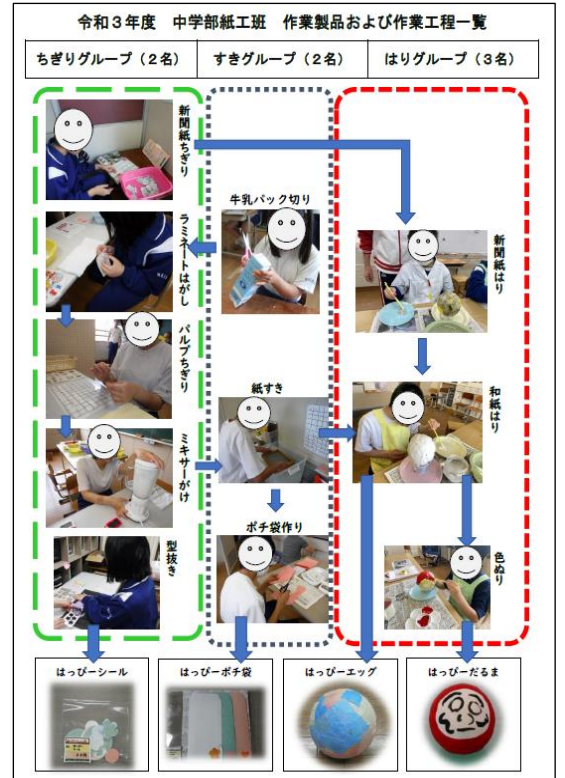


【図2】作業学習に関わる学校教育目標から個別目標への文脈性（試案）

※坪谷らの「学校教育目標から個別の支援目標への文脈性」を参考に作成

②学部目標にある「最後までやり通す」について

作業学習における製品づくり等を「最後までやり通す」ためには、自分が担当している作業内容が、製品づくりのどの部分を担っているのか、また自分が担当した仕事がどのように製品づくりにつながっていくのか等を理解している必要がある。これを受け、紙工班では製作している作業製品とその主な工程が分かる「製品及び作業工程一覧」【図3】を作成した。これは現時点では後述の第2回授業研究会の資料として教員向けに配布したに留まるが、今後の作業学習の中で、生徒が製品づくりの全工程を理解する手立ての一つとして活用できるのではないかと考えている。



【図3】「作業製品及び作業工程一覧」の例

2 作業学習版授業づくりシートについて

(1) 作業学習②における授業づくりシートの活用

6月10日～25日に実施した第2回の作業学習期間において、各作業班で授業づくりシート【図4】を作成し、それに基づいた授業実践を行った。

対象	中学 部	年	7名
単元名	自分の担当の仕事を見よう!	指導形態	作業学習 指導者
単元の目標			
知識・技能	・自分の担当する仕事ができる。・衛生に気をつけて取り組む。・身支度が1人できる。		
*****	・挨拶や返事、報告ができる。・必要な道具を自分で準備する。		
◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎	・自分の仕事に関心をもち、自分から取り組もうとする。		
関する教科	主な指導内容		
国語	1段階(1)A(カ)普通の言葉との違いに気をつけて、丁寧な言葉を使うこと。(2)イ(ア)事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。(3)アイ話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。		
数学	1段階A数と計算、C測定、Dデータの活用		
職業・家庭	1段階 職業分野A職業生活、家庭分野B衣食住の生活イ調理の基礎、ウ衣服の着用と手入れ		
単元計画			
月日	活動名	時数	主な活動内容
6月10日	調理室を整えて、身支度確認をしよう	2	白衣や道具の準備をする。身支度確認をする。
6月11日	目標を決めよう	2	作業班目標、個人目標を考え、掲示する。材料の計量をする。
12日～21日	クッキーを作ろう	18	作業グループに分かれてのクッキー作り、袋詰め。
22日～24日	クッキーを作って販売しよう	2	作業グループに分かれてのクッキー作り、袋詰め、販売。
25日	まとめをしよう	2	販売、売り上げ計算、調理室の片付けをする。
単元の評価			
	評価の観点	成果(○)と課題(△)	改善策
知識・技能	自分の担当する仕事があつたか、衛生に気をつけて取り組んだか、手洗券を見ながら身支度が1人でできたか。	○繰り返し取り組むことで、衛生面の管理ができるようになってきている。 △衛生面の意識はまだ低いため、継続的な指導が必要である。 ○手洗券や目安カードが有効であった。	・毎時間、衛生面について気をつけることを繰り返し確認をする。 ・髪などを触ってしまった場合は、対処法(手を洗う)について伝える。
*****	挨拶や返事、決められた報告ができたか。作業に必要な道具を手洗券などで確認し、自分で準備できたか。	○挨拶や返事、報告は、ほとんどの生徒ができた。(声は小さい生徒もいる) ○グループ内では、声を掛け合うなどして必要な物を準備することができた。 △他の人が先に準備をしようとして、待ちになってしまう生徒がいた。	・手洗券の見直しをする。 ・どの生徒も、自分から準備に取り組むことができる手立てを工夫する。
主体性	自分の仕事に気付き、自分から取り組むことができたか。	○作業分野をローテーションしたり、終わりの時間を示したりすることで、時間いっぱい仕事に取り組むことができた。 △自分から仕事に取り組むことが難しい生徒がいた。	・自分の仕事があつたことで取り組めるような表示や手洗券を工夫する。
その他			

【図4】授業づくりシートの例(クッキー班)

作業学習期間終了後、成果や課題・改善策等を記入した授業づくりシートを資料とし、7月と8月の学部研究において、実践報告と課題解決のための支援の手立てについての意見交換を行った。その後の取り組みについては後述する。

(2) 各教科等との関連について

授業づくりシートにはその単元の学習内容に関する各教科の目標及び内容を記載する欄が設けられているが、より詳しい内容を記載するために「学習内容と各教科等の関連」【図5】及び学習内容と各教科等の目標・内容【図6】を試作した。今回は紙工班の作業工程の一部を対象とするに留まったが、この「学習内容と各教科等との関連」の作成及び活用について今後検討していきたい。

学習内容と各教科等の関連												
前沢明峰支援学校 中学部			紙工班(ちぎりグループ Cさん)				記入者()					
令和3年6月14日作成												
学習内容	各教科等											
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健	職・家	外国語	道徳	特活	自立
1 ミーティング(はじめ、おわり)	○							○				○
2 作業の準備、後片付け								○				○
3 新聞紙ちぎり								○				○
4 パルプちぎり								○				○
5 ラミネートはがし								○				○
6 ミキサーがけ			○					○				○
7 日誌の記入	○							○				○
8												
9												
10												

【図5】学習内容と各教科等の関連 (試案)

学習内容と各教科等の目標・内容			
前沢明峰支援学校 中学部		紙工班(ちぎりグループ Cさん)	記入者()
令和3年6月14日作成			
No	学習内容	各教科等	目標・内容
1	ミーティング(はじめ、おわり)	国語	発音や声の大きさに気付けて話すこと。 身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞きたいことを書き留めたりし分からないことをきき返したりして、話の大体を捉えること。
		職・家	働くことの目的を知ること。 作業や実習等で達成感を得ること。
		自立	【人間関係の形成】集団への参加の基礎に関すること 【コミュニケーション】言葉の受容と表出に関すること
2	作業の準備	職・家	働くことの目的を知ること 意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと
		自立	【身体の動き】作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
3	新聞紙ちぎり	職・家	作業の持続性や巧緻性を身に付けること。
		自立	【身体の動き】作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。 身の回りにあるものの大きさや長さなどの量の違いに注目し、量の大きさによる区別する力を養う【小学部 算数】
4	パルプちぎり	数学	身の回りにあるものの大きさや長さなどの量の違いに注目し、量の大きさによる区別する力を養う【小学部 算数】
		職・家	作業の持続性や巧緻性を身に付けること。
		自立	【身体の動き】作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
5	ラミネートはがし	職・家	作業の持続性や巧緻性を身に付けること。
		自立	【身体の動き】作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
6	ミキサーがけ	数学	時間の単位(日、午前、午後、時、分)について知り、それらの関係を理解すること。【小学部 算数】 時間の単位(秒)について知ること。
		職・家	作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。
		自立	【身体の動き】作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
7	日誌の記入	国語	姿勢や筆記具の持ち方を正しく、文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。 見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。
		職・家	働くことの目的を知ること。 作業や実習などで達成感を得ること。
		自立	【コミュニケーション】言葉の形成と活用に関すること。

【図6】学習内容と各教科等の目標・内容 (試案)

3 授業実践と PDCA サイクルによる授業改善の取組について

(1) 作業学習③における授業改善の取組

前述の「作業学習②における授業づくりシートの活用」の取組の中で各作業班の課題としてあげられたことについて、作業学習③において「支援の手立て」の見直しを行い授業改善に取り組んだ。各作業班の取組のまとめを【表7】から【表10】に示す。

【表7】クッキー班の取組

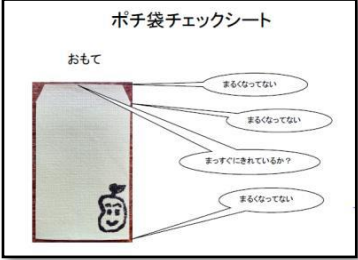
6月作業学習であげられた課題(△)	課題解決のための手立て(◆)	手立ての評価(生徒の変容等) 成果(◎)、課題(▲)
△1人で手をきれいに洗うことは、まだ難しい。	◆手洗いの手順表を見ながら、教師が隣で一緒に洗う。徐々に、手順表の順番を声掛けするだけにする。	・教師が見ていないと、簡単な手洗いで終わってしまうこともある(▲)が、隣で声を掛けるだけで上手に洗えるようになってきた。(◎)
△必要な道具を準備することが難しかった。	◆必要な道具を1つずつ確認した後に、手順表を見て自分で準備するよう促す。 ◆必要な道具をもっと分かりやすく示した手順表を準備する。	・一つずつ確認した後、手順表を見ても、準備することは難しかった。(▲) ・手順表のどこに書いてあるかを伝えると、必要な道具に気付くことができた。(◎)しかし、正確にもってくることは難しかった。(▲)
△グループで準備することで誰かが早く準備し、待ちになってしまうことがあった。	◆準備している友達の動きを見るよう声を掛ける。 ◆自分から動くことができるような声掛けを行う。 (○○さんが□□を準備しているから…次は?) ◆グループで「準備する」「道具チェックをする」という流れを作る。	・準備が終わったときに「□□ありますか?」と自分から友達に声を掛けグループで確認する場面が増えてきた。(◎) ・友達の動きを見て動くことが増えてきた。(◎)
△はかりの中央で計らずに報告することがあった。	◆中央で計るよう作業前に確認する。	・作業に入る前にどの部分で計ったら良いのかを確認したことにより、はかりの中央で計ることができるようになってきた。(◎) ・スピードを意識し、中央でない所に置いたときがあった。(▲)その都度、確認をしたことで中央で計ることを意識できた。(◎)
△生地のおさよによってまとめ加減を自分で調整することが難しいことがあった。	◆作業内容を変えず、回数を重ねる。(積み重ね)	・同じ作業内容にし、継続することで生地の固さによってまとめ加減を調整できるようになった。(◎)

△無意識にマスクや短パンを触ることがあった。	◆触ってしまったときは、消毒をして意識付けする。	・自分で気づいて触らないように気を付けたこともあった。(◎)
△2人グループなので、質問する生徒がいつも同じになってしまった。	◆状況に合った質問の仕方を教える。 ◆周りを見て、行動できるように声掛けをする。	・友達が質問するのを聞いて、気がつき行動できたことがあった。(◎)
△タイマーが見えるところにあると、何回も見てしまい集中できないことがあった。	◆生徒から見えないところにタイマーを置いて、残り時間をその都度伝えた。	・タイマーを見ずに作業に集中できた。(◎)

【表8】クラフト班の取組

6月作業学習であげられた課題(△)	課題解決のための手立て(◆)	手立ての評価(生徒の変容等) 成果(◎)、課題(▲)
△機械に慣れてくると私語が多くなることがある。	◆ミーティングの中で、クラフト班の目標「安全に作業する」を繰り返し確認する。	・「気の緩みがケガにつながることを繰り返し話すことで意識できるようになってきた。(◎)
△休憩時間に、にぎやかになりすぎることがある。	◆にぎやかになりすぎるときには、声をかけて、休むことの大切さについて話をする。	・落ち着いて休むことができるようになってきた。(◎)
△サンダーがけでは、操作時間をキッチンタイマーで知らせるようにしたが、タイマーが気になって作業自体に集中できなかった。	◆キッチンタイマーは使用せず、チョークで軽く色をつけた部分が消えるまでサンダーがけするようにする。	・チョークの目印を意識できるようになってきている。(◎)
△自分から報告することが難しい様子が見られた。	◆先生と一緒に報告の仕方を練習する。	・自信をもって作業できるようになることで報告もできるようになってきた。(◎)
△周囲の様子が気になりよそ見をしてしまう。	◆他の生徒が視界に入りにくいように、位置関係を配慮し、壁に向かって作業する場所を設定する。	・周囲の様子がやはり気になる(▲)が、しかし作業自体は上達している。

【表9】紙工班の取組

6月作業学習であげられた課題(△)	課題解決のための手立て(◆)	手立ての評価(生徒の変容等) 成果(◎)、課題(▲)
△ポチ袋作りでは、作業の後半になると、正確さが欠けてきた。	<ul style="list-style-type: none"> ◆手本の型紙を手元近くに置く。 ◆切り取った部分がまっすぐになっているか、本人と確認する。 ◆和紙をもつ手を、切りやすい角度に動かすよう声掛けをする。 ◆ポチ袋を作る際の注意点が書かれたチェックシート(右図)を使用し、自分で確認したあとに教師に報告する流れを定着させる。 ◆ポチ袋の仕上がりを本人と確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し取り組むことで、まっすぐに切断することができるようになり、仕上がりがきれいになってきた。(◎) 
△ポチ袋づくりでは、作業の後半になると、糊付けが雑になってしまうことがあった。	<ul style="list-style-type: none"> ◆後半は、短い休憩を数回に分けて入れる。 ◆雑さがみられたときは、一度作業を止め、糊付けの仕方を改めて確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩を入れることで、集中力が切れることなく最後まで丁寧に作業することができた。(◎) ・和紙が上手く貼れないときは、作業を止めて自分から教師に確認を求めることができるようになった。(◎)
△使用した道具の洗い物では、洗い残しがみられることがあった。	<ul style="list-style-type: none"> ◆スポンジを使用して、カップの底の糊を落とすよう声掛けをする。 ◆洗った後の道具に洗い残しがみられないか、本人と一緒に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗い残しがみられないか自分で確認する様子が見られるようになった。(◎) ・筆を使ってカップの底の糊を落としたり、すすぎを繰り返したりと工夫して道具を洗う様子が見られた。(◎)
△ミキサーなどの扱いが荒いときがあり、「やさしく」「静かに」等の声掛けを要することがある。	<ul style="list-style-type: none"> ◆用具の準備をする際には両手を使って持ち運ぶように声をかける。 ◆ミキサーのふたをする際には、「両手でギュッ」と声をかけてふたをきちんと閉められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両手で用具類を扱うよう声掛けを続けたことにより、自分でも「両手で」と言いながら用具類を両手で持ち上げたりする様子が見られるようになった。「ていねいに」という抽象的な言葉ではなく、具体的な行動を表す言葉の使用が効果的だった。(◎)
△報告を忘れ、シールをもらわずに次の作業に移ることが、しばしばあった。	<ul style="list-style-type: none"> ◆報告を忘れている場合は、見える場所にシールを置くなどして報告のきっかけをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり得意ではない作業工程の際に、本人の好きなキャラクターのシールを用いることで、報告へのモチベーションを上げることができ、報告を忘れることが少なくなった。(◎)

<p>△見通しが持てないと不穏になることが多いが、作業の終わりが見えてくことで逆にイライラが募ることがあり、大きな声を出したり用具の扱いが雑になったりすることがあった。</p> <p>△不穏な様子が見られた際に別の場所で休憩を取ろうと声をかけると、その刺激で興奮してしまうことがあった。</p>	<p>◆作業の進み具合や体調などにより不穏になることがあるので、一つ一つの作業とその報告に対するモチベーションを上げるために、作業日誌に貼るシールに、本児の好きなキャラクターのものを貼るなどの工夫をする。</p>	<p>・あまり得意ではない作業工程の際に、本人の好きなキャラクターのシールを用いることで、それを楽しみに予定された回数を最後までやりきる様子が見られた。(◎)</p> <p>・依然として作業中に不穏になることがあるので、本人の体調やそのときに気になっていることなどを事前に把握し、適切な対応を継続していくことや、作業自体に対するモチベーションを上げるための工夫が必要である。(▲)</p>
---	--	--

【表 10】手芸班の取組

6月作業学習であげられた課題(△)	課題解決のための手立て(◆)	手立ての評価(生徒の変容等) 成果(◎)、課題(▲)
△裁断しにくい布では、鋏を上手に使うことが難しかった。(ミシングループ)	◆布を真っ直ぐ裁断できるように、ペンで印を付ける。	・11月の実習で評価する。
△ミシン縫いでは、手の動作と足の操作に慣れず、足を止めてしまったり、針と布をよく見ずに真っ直ぐ縫えなかったりする箇所があった。	◆縫う箇所が難しい部分は、ミシンで縫う前に教師と確認し、注意してゆっくり丁寧に縫うことができるようにする。 ◆布に印を付け、縫う箇所を分かりやすくする。	・縫う箇所が難しい部分を縫う前に確認し、プーリーを手で回しながら丁寧にゆっくりと縫うことができた。(◎) ・布に付けた印をよく見て真っすぐに縫えるようになってきている。(◎)
△失敗したときにすぐに報告できなかった。	◆縫い方の良い見本と悪い見本を伝え、見て確認できるようにする。	・縫い方の良い見本と悪い見本を伝えたことで、自分の失敗に気付くすぐに報告することができた。(◎)
△作業に飽きてきたり、普段と違う状況になったりすると手順通りに作業できないことがあった。様子を見ながら、確認の声掛けが必要。(フェルトボールグループ)	◆作業のはじめに手順を確認する。 ◆作業内容を教師と一緒に確認、選択する。	・作業のはじめに手順を確認することで、手順を覚え、手順通りに行うことができるようになってきた。(◎) ・自分の体調に合わせて、作業内容を選択できるようになってきている。(◎)
△活動が単調で関心の継続には工夫が必要。	◆フェルトボールメーカーとネットに入れたケースと2種類用意し、自分で選べるようにする。 ◆羊毛フェルトの色を複数用意し、自分で選べるようにする。	・自分で使いやすい方の道具を選択し、作業することで時間いっぱい作業できるようになってきている。(◎) ・自分の好きな色を選択することで、意欲的に活動できるようになってきた。(◎)
△羊毛をほぐしたり、振って丸めたりするそれぞれの工程の終わりが分かりづらかった。自分で判断して報告するためには、	◆ほぐす回数や時間を伝え、終わりの見通しをもつことができるようにする。 ◆振る際には、カウントダウンをして、振	・教師がそばで数を数えたり、タイマーを活用したりすることで、見通しをもって作業できるようになってきている。(◎)

終わりの目安が必要。	る目安を示す。 ◆タイマーが鳴ったら報告する。	
△明確な発語のない生徒の報告の仕方について、個別の工夫と職員間での確認が必要。	◆報告は、チーフ職員にするよう統一する。	・報告する職員を統一することで、混乱なく報告ができるようになってきた。チーフ職員がいる場所まで移動して報告する姿もみられた。(◎)
△他のやりたい作業種（洗剤液の中で丸める活動）に取り組むことが、意欲につながっていたが、そちらに気持ちが向き、裂いたり、振ったりする活動が雑になることがあった。	◆対象生徒にとって、分かりやすく意欲につながる声掛けをし、作業全体の見通しと意欲付けを図る。 ◆カウント表を活用し、作業終わりにシールを貼る。	・カウント表を活用することで、作業に意欲をもって取り組むことができるようになってきている。(◎) ・裂いたり、振ったりする活動が雑になることはある(▲)が、声掛けを受けて、洗剤液の中で丸める活動を行うために作業に取り組む姿もみられた。(◎)
△少ない声掛けで作業を継続することができるように、掛ける言葉やタイミングを精選していくことが必要。	◆目標個数が決められる生徒は、自分で決め、目標を明確にする。 ◆タイマーを活用する。	・カウント表を活用することで、前日の回数を確認し、目標を決めることができた。(◎) ・タイマーが鳴るまで、作業を続けることができるようになってきている。(◎)

(2) 中学部提案の授業研究会の取組

本校では例年各学部1回の提案授業による授業研究会を実施している。中学部では今年度からの学部研究テーマに基づき、紙工班の作業学習を提案授業として設定した。

年度当初は10月の作業学習③(【表4】参照)の期間に授業公開を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染予防対策による行事変更で、作業学習③が8月末～9月上旬の実施に変更されたことで、予定していた授業公開ができなかった。そのため、この期間に撮影しておいたビデオによる授業提案を行った。提案授業の概要を【表11】に示す。

【表11】第2回授業研究会提案授業の概要(中学部作業学習紙工班)

単元名	学習発表会での販売に向けて、製品をたくさん作ろう。
対 象	紙工班 生徒7名(すきグループ2名、はりグループ3名、ちぎりグループ2名)
授業者	A(T1)他4名

提案授業では資料として、以下の①～④を配付した。③については、学部研究会の中で、「授業づくりシートには生徒の実態を記入する欄がないため、日常的に関わる職員以外は生徒の様子が分かりにくい」という意見が出たことを受けて作成したものである。

- ① 授業づくりシート(単元計画シート、授業記録シート)【図7】【図8】
- ② 作業製品及び作業工程一覧(前述)【図3】
- ③ 作業学習に関わる生徒の学習の様子と個別の指導計画(前期)の目標及び評価【図9】

④ 個別の支援の手立ての例（ちぎりグループCさんへの支援の手立て）【図10】

授業づくりシート(単元計画シート)

対象	中学 部	1～3 年	7 名
単元名	学習発表会での販売に向けて、製品をたくさん作ろう。	指導形態	作業学習 指導者 T1、2、3、4、5、6(介)
単元の目標			
知識・技能	必要な道具などの使い方を知るとともに、材料や製品の適切な扱い方を身につけ、安全や衛生に気をつけながら作業に取り組む。		
態度・行動力	作業工程や自分が担当する仕事に分かり、他の生徒と協力して作業に取り組む。挨拶や返事、報告、質問など、仕事に取り組む上で必要なやりとりができる。		
学びに向かう力・人間性	働くことへの関心をもち、作業に取り組む態度を養う。		
関する教科	主な指導内容		
国語	1段階 (2)内容A(カ)普通の言葉との違いに気をつけて、丁寧な言葉を使うこと。イ(ア)事柄の順序などを、情報と情報との関係について理解すること。等		
数学	1段階 (2)内容 A数と計算 A整数の表し方、イ整数の加法及び減法、Cア測定 A量の単位と測定、イ時刻や時間、Dデータの活用 A表やグラフ 等		
職業・家庭	1段階 (2)内容 職業分野A職業生活 A働くことの意味、イ職業に関わる事柄 (ア)職業に関わる知識や技能、(イ)職業生活に必要な思考力・判断力・表現力、家庭分野 B衣食住の生活 衣服の着用と手入れ		
単元計画			
月日	活動名	時数	主な活動内容
8月30日	作業学習をがんばろう		2個人目標を決める。それぞれのグループの作業の準備をする。製品作りをする。
8月31日～9月9日	製品をたくさん作ろう	16	グループ毎に担当の仕事をすすめ、製品作りを進める。
9月10日	作業学習のまとめをしよう	2	作業学習のまとめとして、後片付けや掃除をしたり、個人目標の振り返りをする。
単元の評価			
	評価の観点	成果(○)と課題(△)	改善策
知識・技能	必要な道具、材料、製品などを適切に扱うことができたか。安全や衛生を意図して作業に取り組むことができたか。	○担当する作業工程に繰り返し取り組むことで、準備や後片付けを含め、必要な用具類を適切に扱うことができた。△作業内容によっては、ていねいに次ける部分も思われるので継続した指導が必要である部分が多かった。	・生徒の実態や作業工程により、チェック表を用いる等生徒の実態に合わせて「ていねいに」作業するための手立てを講じる。
態度・行動力	作業の進め方や作業工程が分かり、意図をもって作業に取り組めたか。必要な報告、質問、挨拶が適切にできたか。	○担当する作業工程に繰り返し取り組む中で、作業の流れを覚えたり、挨拶が慣らなったりして一人で取り組むことができた。△作業の進め方など、後れが出るため作業の精度が落ちることがある。	・最終製品の作業に継続して取り組むため、特に流れが回らぬ作業に集中するための手立てを講じる。
学びに向かう力・人間性	作業量の目標を意図し、時間いっぱい、自分から作業に取り組むことができたか。	○自分の担当する作業工程に見通しを持って取り組むことができるようになり、次に何をすべきかを分かって行動できる場面が増えた。△時間内に取り組むことができる作業量を増やす、作業製品の質を向上させる。新しい作業工程を担当するなど、より高いレベルを目指して作業に取り組むことができる手立てを検討していく。	・生徒の実態に合わせて、担当する作業工程を再検討したり、新たな作業製品を開発したりするなどの取組を行う。
その他			・販売活動と結びつけることにより、より質の高い製品作りを意図できるようにする。

【図7】授業作りシート（単元計画シート）

授業づくりシート(授業記録シート①)

対象	中学 部	3 年	1 名	指導者	熊沢
単元名	学習発表会での販売に向けて、製品をたくさん作ろう。	指導形態	作業学習	期日	8月31日～9月1日
本時の活動 ポチ袋をつくらう					
単元の目標			本時の目標		
知識・技能	必要な道具などの使い方を知るとともに、材料や製品の適切な扱い方を身につけ、安全や衛生に気をつけながら作業に取り組む。		目印の線に沿って、はさみで和紙を切断することができる。		
態度・行動力	作業工程や自分が担当する仕事に分かり、他の生徒と協力して作業に取り組む。挨拶や返事、報告、質問など、仕事に取り組む上で必要なやりとりができる。		製品の形状を自分で確認してから教師に報告をすることができる。		
学びに向かう力・人間性	働くことへの関心をもち、作業に取り組む態度を養う。		決められた作業時間いっぱい集中して取り組むことができる。		
関する教科	主な指導内容				
国語	1段階 (2)内容A(カ)普通の言葉との違いに気をつけて、丁寧な言葉を使うこと。イ(ア)事柄の順序などを、情報と情報との関係について理解すること。等				
数学	1段階 (2)内容 A数と計算 A整数の表し方、イ整数の加法及び減法、Cア測定 A量の単位と測定、イ時刻や時間、Dデータの活用 A表やグラフ 等				
職業・家庭	1段階 (2)内容 職業分野A職業生活 A働くことの意味、イ職業に関わる事柄 (ア)職業に関わる知識や技能、(イ)職業生活に必要な思考力・判断力・表現力、家庭分野 B衣食住の生活 衣				
本時の活動					
時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点(手立て)		備考(教材・教具など)	
10:30	ミーティングの司会をする。	・服装点検で爪が伸びていないかどうか、靴紐がほどけていないか、シャツはしまっているかを確認する。		・作業日誌	
10:40	本時の作業内容の確認をする。 作業の準備 手順に沿って作業を進める。(ポチ袋作り) ①和紙を切る。②のり付け③組み立て ※一つ完成したら教師に報告をする。	・あらかじめ型紙通りに線を引いておく。 ・和紙を切る際には、はさみではなく和紙をもつ手の方を切る方向に動かすように声掛けする。 ・報告をする前に自分でポチ袋の形状のチェックをするように声掛けをする。 ・当日の作業の様子を評価し、「先生から」の関に教師がコメントを書く。		・ポチ袋の型紙 ・はさみ ・のり	
11:40	片付け、作業日誌の記入をする。	・作業の終了時刻により、休憩時間を調整する。			
11:50	ミーティング、作業報告をする。	・作業報告では、自分ががんばったことを「○○をがんばりました」と報告し、作業の様子について教師が補足し、賞賛する。			

【図8】授業づくりシート（授業記録シート）

作業学習に関わる生徒の学習の様子と個別の指導計画（前期）の目標及び評価

中学部 紙工班

学年	氏名	学習の様子	個別の指導計画	
			○目標・■支援の手立て	評価
1	A	はりグループで、だるま作りを担当している。作業の流れを覚え、一人で作業の準備から片付けまで進めることができるようになってきた。和紙貼りでは、和紙が浮かないように貼ろうと意識する様子が見られるようになってきたが、慣れてくると貼り方が雑になってくることもある。	○自分の作業内容が分かり、決められた時間、集中して取り組むことができる。 ■教師や先輩の手本に注目しやすい配置にしたり、手順表を提示したりすることで見通しをもって取り組めるようにする。	・和紙貼りの手本をよく見て、手順通りに一人で作業を進めることができるようになりました。慣れてくると、糊付けが雑になることがあるので、後期は丁寧な作業を心掛けて取り組めるよう支援していきます。
2	B	すきグループで、紙すきを担当している。おおむね準備から片付け、洗濯を行うことができているが、手順の順番が前後したり、抜けてしまったりすることがあり、行き詰まるとその場に固まってしまうことがある。また、作業後半になると集中力が途切れ、紙の	○分からないことを周りの友達や教師に質問することができる。 ■初めての作業内容を学習する際、説明の後に「質問はありますか?」と問いかける。 ■何が分からないのかを本人と確認する。	・活動の中で、分からない部分を教師や同じグループの生徒に質問をしながら、疑問を解決する様子が見られました。

【図9】作業学習に関わる生徒の実態に関する資料（抜粋）

ちぎりグループCさんへの支援の手立てについて

1 スケジュール表の提示

Cさんへの個別の支援として、ほとんどの授業で【図1】のようなスケジュール表を使用している。A6サイズのシートにマスキングテープを数枚貼り付け、それぞれの活動が終わったら、はがして裏に貼るという流れで、学習活動に見通しが持てるようにしている。作業学習においては、後述の作業日誌を併用しているため、おおまかな流れのみを提示している。

【図1】スケジュール表

【図2】作業日誌の様式

2 作業日誌の様式

作業日誌は昨年度から【図2】の様式を使用している。それぞれの作業工程については当日行う作業量が分かるように○印で提示し、1サイクルが終わる毎にシールを貼っていくことで、残りの作業に対する見通しが持てるようにしている。当日の作業の進み具合によっては、予定の作業量に達しない場合もあるので、本人の体調等も考慮しながら、作業量については柔軟対応しており、作業量を減らす場合は、○印を斜線で消している。これに対し本人が戸惑う様子などは見られない。

【図3】環境設定

【図4】新聞紙の準備

まず作業を行う際、最初に貼り付ける新聞紙を準備する。あらかじめ約10cm×5cmに切った新聞紙（一束12枚）【図4】をクリップでとめておき、【図5】のように一枚

【図5】新聞紙ちぎり②

【図10】個別の支援の手立ての例

① 授業研究会のグループ協議において作成したワークシートの記述から

授業研究会はワークショップ形式で行い、参加者 50 名が 5 つのグループに分かれて、授業の成果と課題・改善策について意見交換を行い、ワークシートを作成した。

各グループで作成したワークシートには「成果」と「課題及び改善策」あわせて 129 枚の付箋による記述が得られ、特に「課題・改善策」としてあげられたものについては、今後の授業改善につながるアイデアが多かった。これらの中から、11 月 17 日～12 月 3 日に実施した校内実習における授業改善の取組を【表 12】にまとめる。

【表 12】 中学部紙工班の校内実習における授業改善の取組

授業研究会で作成したワークシートの記述から得られた課題 (△)・改善策 (□)	課題解決のための手立て (◆)	手立ての評価 (生徒の変容等) 成果 (◎)、課題 (▲)
△担当者が変わった時に同じ支援ができるか。	◆教師間で生徒の実態や対応についての共通理解を進め、複数の職員が同じ支援方法で対応できるようにする。	・特に校内実習中は授業に入る職員の手が限られており、共通理解のために複数の職員で対応する時間が取れないため、難しさがある。特に個別の支援が必要なちぎりグループの生徒に対しては、現時点で対応できる職員が少ないため、可能な範囲で対応できる職員を増やしていくように取組を進める。(▲)
△紙すきの容器の位置が高すぎる (生徒の身長に合っていない)。	<p>・年度当初、本人に確認した際、踏み台はいらないと話していたため、そのまま実施していた。</p> <p>◆再度、本人に確認し踏み台を準備した。</p> 	<p>・年度当初は作業の経験が少なく、作業時間も短かったため、本人は不都合を感じていなかったようであった。</p> <p>・校内実習で長時間の作業に取り組むようになったこともあり、教師の提案で踏み台を使用すると、その方が作業しやすいことに気付いたようだった。作業効率も上がったと思われる。(◎)</p>
△紙すきの動線が一方方向になっていない。	・紙すき作業に使用する流しのスペースに限りがあり、動線を一方方向にするのは難しい現状がある。	・今後、検討する。(▲)
△すいた紙をすきからはずすときに、枠の内側から落として抜いているので、紙に穴があいてしまっている。	・すき枠にはさむネットが柔らかくなっており、すいた紙の厚さによってはすき枠の内側に落ちてしまう様子が見られた。ネットを新しいものに替えて、内側に落ちないようにする。	・ネットを新調することで、すき枠の内側に落ちてしまうことがなくなり、それが原因ですいた紙に穴があくことはなくなった。(◎)

△ポチ袋作りの型取りの際に、型紙がずれてしまうことがある。	・必要に応じ、クリップなどで固定できるようにする。	・担当生徒の実態から、特に必要ないと判断した。手でしっかりおさえることを意識付けることで、十分に対応できている。(◎)
□作業ノルマを設定してはどうか	・生徒の実態や、作業内容等にあわせてミーティングや、作業中の声がけ、日誌へのコメントの記入などで個別に意識付けられるようにする。	・個別の支援で意識付けができています。(◎)
□ポチ袋作りの型取りの際に、鉛筆ではなく紙の色に合わせた色鉛筆を使ってはどうか。	・紙の色に合わせ、目立たない色の色鉛筆を使用する。	・完成した製品に黒い線が残らず、品質の向上につながった(◎)
□生徒が理解できるスケジュール表を提示してはどうか。	・ちぎりグループでは作業日誌に個別の様式を作成してスケジュールを提示している。 ・授業研究会に向けて作成した「作業製品及び作業工程一覧」【図3】を活用する。	・作業日誌の個別の様式を使用しても、生徒の実態によっては、見通しを持つことが難しい場合がある。継続して検討する。(▲) ・「作業製品及び作業工程一覧」についてはより生徒の実態に合ったものを、継続して検討する(▲)
□ラミネートはがしや型抜きでの生徒への支援を減らせないか。		・現時点では効果的な支援の手立ては見いだせていない。今後、検討する。(▲)

②授業研究会のまとめ資料から

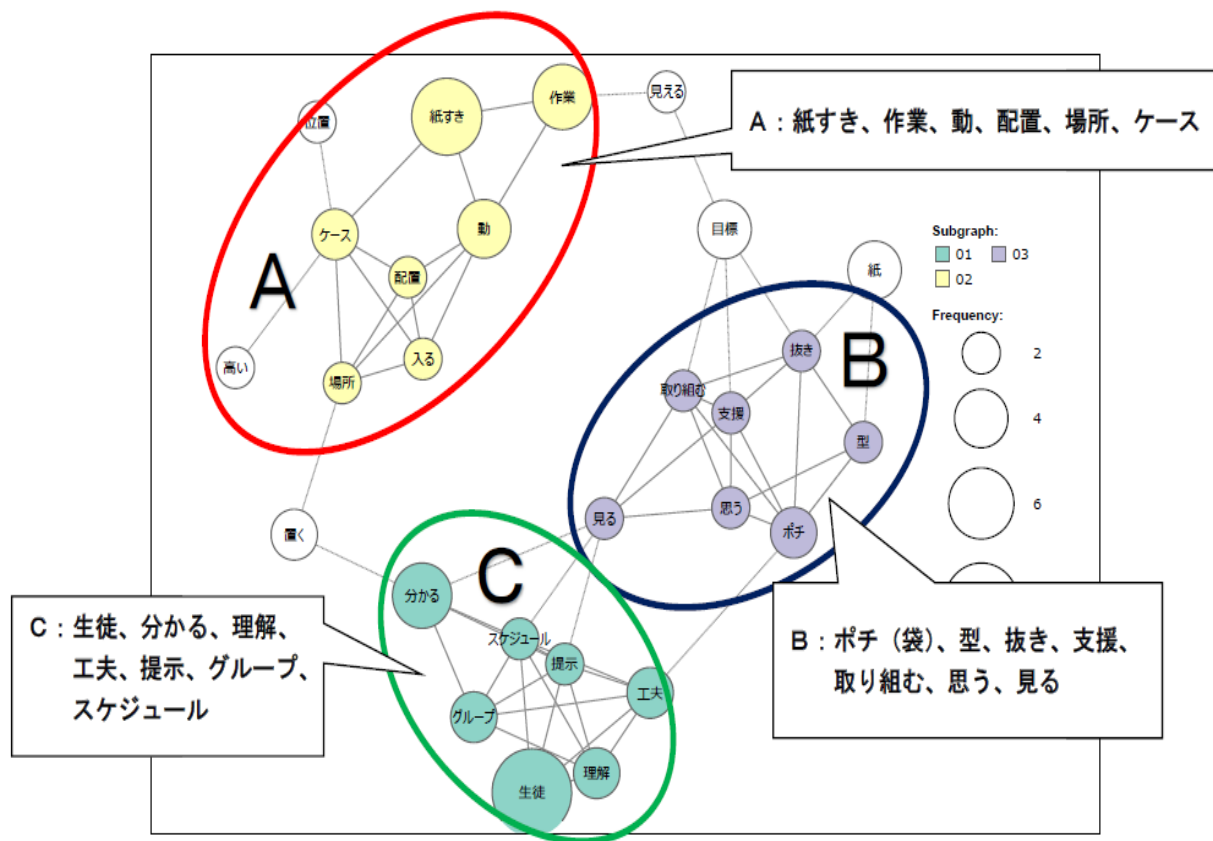
「課題・改善策」の記述からキーワードを抽出し、テキストマイニングによってそれらのキーワードの関係を図式化した「共起ネットワーク図」を【図11】に示す。

ここから今回の提案授業における課題を以下の3点にまとめた。【表12】の記載のとおり、校内実習期間の実践で、すでに改善に取り組み、成果が出ている部分もあるが、今後の授業改善の視点として活用していきたい。

A：より効率的に作業を進めるための用具類の配置や、動線の確保

B：品質を向上させるための支援

C：見通しを持つことができるようになるための支援



【図 11】「課題と改善策」の記述から得られた共起ネットワーク図

4 「まとめ取り方式」による作業学習の実施について

現在、本校中学部で実施している作業学習の「まとめ取り方式」について、「通年方式」切り替えた方がよいという意見がある。県内の支援学校中学部で「通年方式」による作業学習を実施しているA支援学校と本校とは若干異なる形で「まとめ取り方式」を実施しているB支援学校から情報をいただき作成した資料をもとに、12月学部研究会において、グループワークを行い、今後の実施のあり方について考えて行く予定である。

5 研究のまとめ

昨年度までの研究を受け、作業学習の授業改善に取り組んだ今年度の学部研究であったが、ここまでに述べてきた研究の実際を受け、1年次の成果と2年次の研究に向けた課題を以下にまとめる。

(1) 成果

① 作業学習年間指導計画の作成の流れについて

各作業班でのグループワークにおいて学校教育目標、学部目標と作業学習年間計画の目標の文脈性を確認したことで、学校教育目標や学部目標を意識した作業学習年間指導計画の目標のあり方について共通理解ができた。また、ここに関わって、「作業学習に関わる学校教育目標から個別の指導計画目標への文脈性（試案）」【図2】を作成したので、次年度の年間指導計画作成の際に活用したい。

② 授業づくりシートの活用について

昨年度までの研究で「生活単元学習」の授業において様式を検討してきた「授業づくりシート（単元計画シート、授業記録シート）」を「作業学習」で活用した。昨年度の学部研究では「(学年によっては)シートの作成に関わる職員が限られた」という課題があげられていたが、今年度は作業班毎に「授業づくりシート（単元計画シート）」、作業班内のグループ毎又は個別に「授業作りシート（授業記録シート）」の作成を行ったことで、中学部職員の約半数が、実際に「授業づくりシート」の作成に関わることができた。

③ 授業改善の取組について

6月の作業学習で作成した授業づくりシートに記載された「課題」について、一覧表を作成し、課題を解決するための手立てを組んで実践することで、授業改善の取組につなげることができた。具体的には【表7】から【表10】の記載のとおりであるが、課題をもとに具体的な手立てを明確にして取り組むことで、30件以上の「成果(◎)」の記載が得られるとともに、継続した取組が必要な課題についても、ある程度明確にすることができた。

④ 授業研究会後の授業改善の取組について

授業研究会のグループ協議において、他学部の職員から学部を越えた視点で様々な意見が出された。特に課題については、一覧を作成して担当者で検討し、11月～12月の校内実習期間に授業改善に取り組んだ。その内容は【表12】に示したとおりであるが、担当者間、学部内にはなかった視点で課題を明確にすることができ、それをもとにした授業改善の取組ができたことは、大きな成果だったと言える。

(2) 課題

① 授業づくりシートの様式について

学部研究会の中で「授業づくりシートには生徒の実態を記入する欄がないため、日常的に関わる職員以外は生徒の様子が分かりにくい」という意見が出たことを受け、授業研究会に向けて「作業学習に関わる生徒の実態に関する資料」【図9】を作成した。この内容を授業づくりシートの中に取り込むかどうかについて、検討が必要である。

② 各教科との関連について

授業づくりシートに記載してある、関する各教科の主な指導内容について、より詳しい内容を記載するために「学習内容と各教科等の関連」【図5】及び「学習内容と関する各教科等の目標・内容」【図6】を試作したが、今年度の実践においては、その内容や活用の仕方について学部全体で検討するまでに至らなかった。必要性や実用性の有無も含め、次年度の実践で検討していく。

③ 作業学習の実施方法について

前述のように、現在実施している「まとめ取り方式」を「通年方式」との比較により、本校中学部におけるよりよい作業学習の実施方法について継続して検討し、令和4年度末には結論を出したいと考えている。

④ 授業研究会及び全体研究会での指導助言の内容から

第2回授業研究会(中学部提案)及び第2回全体研究会において、岩手大学大学院教育学研究科准教授の佐々木全先生から貴重なご助言をいただいた。助言の内容をおおまかに以下にまとめ、次年度

に向けての課題ととらえる。

○共に働く教員像づくり

子どもたちのできる状況を作りながら、子どもたちと共に作業学習に取り組む。その姿から子どもたちは様々なロールモデルを見ていく。

○支援の精度を評価、検証するための視点

より深く作業学習のことを研究し、より深く一人一人の生徒を理解する。講じられる「できる状況づくり」の精度が上がる。

○作業工程のリストアップ

作業動作を実現するための要件は何か（良い作業動作の例：正確な動き、迅速な動き、安全で持続可能）。製品の管理が適切になされているか（判断基準がはっきりしていること、ローコストでハイパフォーマンスを目指す）。

○作業分担の根拠は何か

実態把握が十分になされていること（こういう特性があって、こういう適性があって…と説明ができる）。情緒的な思いを感じながら作業できると良い。子どもたちが「自分はこれをすることを期待されているんだ」と感じる事が大切。

○「支援の手立て」について

・【表 12】の授業改善の取組等については、その手立てに注目して、【ヒト（伝達と共感）】【モノ（道具と場の設定）】【コト（活動内容とその展開）】の観点で分類して整理するとよい。

・「目指すもの（〇〇のために△△する）」という観点で見る、考える。また、授業づくりシート等への記載は「〇〇しやすいように、△△△する」のようにする。支援の意図を記すことで、授業者の考えが分かりやすくなる。

○評価に関すること

評価に基づいて目標や手立てがブラッシュアップされる。「ブラッシュアップ」＝「発展する」とは限らない。「今日と同じ」ということもある

「できる状況の中で、できる人になった」→力が付いたので手立てが必要なくなった。

手立てを減らしていった方がよいということではない。当事者が必要なくなったと評価したら、手立てを減らしたり、なくしたりする。

作業に慣れて「飽きてきた」状態は「できる状況の不足」。そんなときこそ発展のチャンス。

○子どもたちが、よりやりがいのある作業内容を保証する、目指していくことが大切である。

【参考・引用文献】

- (1) 名古屋恒彦, 「各教科等を合わせた指導」エッセンシャルブック, ジアース出版社, 2019
- (2) 特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領, 文部科学省, 2017
- (3) 岩手県立前沢明峰支援学校研究集録 明峰の実践第 19 号, 岩手県立前沢明峰支援学校, 2021
- (4) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部), 文部科学省, 2018
- (5) 坪谷有也ら, 知的障がい特別支援学校における「主体性理念」の取り扱いに関する論考(2) - 主体性の「定義」「目標」「評価」に着目して -, 2018